

美作の民権運動の

主導者 中島衛 ①

明治時代前期、美作地域で自由民権運動が盛んな時期がありました。この美作の民権運動を主導した人物が中島衛です。

中島衛は、天保十四年（一八四三）、香々美村の大庄屋・中島多右衛門の長男として生まれました。本名は政憲、明治初期頃までは譲治郎（譲二郎）、勇治郎（勇二郎）とも名乗っています。

中島家は代々、香々美構（大庄屋が管轄する複数の村の単位）をまとめる大庄屋を勤める家柄で、香々美新町に屋敷がありました。

父の多右衛門は、幅広い見識と開明的な思想をもち、津山藩からの評価も高く、嘉永六年（一八五三）に



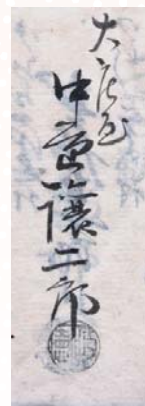
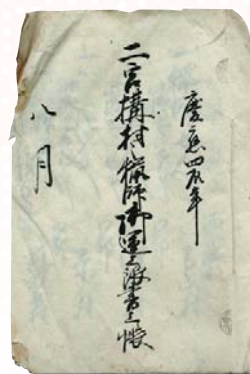
中島衛 肖像



中島衛と家族

（左から2番目が衛、中央の男性が父・多右衛門か）

ペリーが浦賀に來航した際には、藩の命令で他の大庄屋と共に人夫を連れて江戸へ出府し、当時の政情や海外の情勢などの情報を精力的に収集しています。また、屋敷内に私塾「休嫌舎」を設立して地域の子弟教育にも力を注ぎ、教師として元赤穂藩士の鞍懸寅二郎を招きました。寅二郎は後に津山藩に登用され、勤王派の急先鋒として藩政改革に着手した人物です。若き日の衛が、多右衛



二宮構大庄屋の文書と中島讓二郎（衛）の署名（慶応4年）

門や寅二郎の影響を受けたことは間違いない、それが後の彼の活動の原点となったことが想像できます。

安政三年（一八五六）、衛は父を補佐する役職・大庄屋手伝に任命されると、その間に起こった第一次・二次長州戦争には、津山藩の軍事夫役にあたる百姓をまとめる取締として同行し、勤務態度が優秀であったとして褒美に木盃を授与されており、幕末の動乱期においてリーダーとしての頭角を現していたことがわかります。

慶応三年（一八六七）五月、衛は二宮構（現在の津山市二宮）の大庄屋本役と香々美構の助役に任命されました。

二宮構は二宮村の立石家が代々大庄屋を勤めていましたが、前年に大庄屋・立石正介の甥である立石孫一郎が備中倉敷代官所・浅尾陣屋を襲撃する事件があり（備中騒動）、正介は

甥の起こした事件に関連して捕らえられ、出獄後は自宅に幽閉されてしまいます。そうした状況の中で正介は備中船穂村（現浅口市）から養子を迎えました。後に衛と共に美作の民権運動の中心人物となる立石岐です。

この年は未曾有の大凶作に加え、二度にわたる長州戦争で民衆への負担は重くのしかかり、美作各地で一揆が起こっていました（改政一揆）。衛が二宮構の大庄屋に任命されたことは、立石正介が一族の不祥事で要職に就くことが憚られたということと、他国から養子に來たばかりの岐では、不安定な情勢下で大庄屋を勤めることに不安だったという背景があったと思われるが、衛にそれだけの力量があることを藩から認められていたことも示しています。

そして明治二年（一八六九）十二月、二十六歳の時に二宮構の大庄屋を免ぜられ、父の跡を継いで香々美構の大庄屋に任命されました。

多右衛門の設立した休嫌舎は明治二年に閉鎖しますが、衛はその後、修斉館を創設して父の意志を受け継ぎ、地域の子弟の教育にも力を注ぎました。

参考資料：「中島家文書」「津山の人物」「枳形・日上山城と香々美村のくらし」「美作の民権家・中島衛について」

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733